

平成29年度
浜中町海鳥繁殖調査

(a) 【海鳥繁殖地特定調査】

1) 目的

2014 年から 2016 年度の調査により、浜中町におけるオオセグロカモメ (*Larus schistisagus*) とウミネコ (*Larus crassirostris*)及びウミウ (*Phalacrocorax Capillatus*) の営巣場所及び営巣数の変化が把握できつつある。3 種とも、道東の海岸域で普通に見られるが、世界的にみると極東にのみ分布する非常に限られた種であり、北海道道東部域が日本での繁殖分布の中心である。3 年間の調査によりオオセグロカモメについては繁殖が港の外堤防に多くあり、オジロワシにより巣立ちする雛が少ないことが判明しつつある。ウミネコはケンボッキ島のみで集団繁殖するがやはりオジロワシの影響が大である。ウミウについては小規模繁殖が減少し最大繁殖地である小島での繁殖数が増えているのが判明してきた。ケイマフリ (*Cephus carbo*) は世界的な分布が狭く、主要な繁殖地である北海道においては激減し、現在は 1000 羽程度が生息していると言われ絶滅危惧種に指定されている。3 年間の調査により、小島や涙岬周辺において浜中町では最大 13+ペアが繁殖していることが判明した。これら生息数が減少している海鳥類が、2017 年現在、どれくらい営巣し雛が育つかを本調査により把握し、2014 年度からの 4 年間で繁殖場所や数がどう変化したかを明らかにする。また海鳥に影響を与えていると考えられるオジロワシ (*Haliueetus albicilla*)については、霧多布島での繁殖ペアに着目し記録する。

2) 海鳥及びオジロワシの調査方法

3 年間同様に浜中町全沿岸を 3 ケ所に分け、営巣時期に小型船で航行しオオセグロカモメ及びウミウの営巣数をカウントし地図上に位置を落とす。5 月上旬から 8 月の繁殖期間に陸上からも視認し、営巣数の把握や、集団繁殖地及び数か所の少数繁殖地を選定し雛の巣立ちまでの繁殖状況をモニタリングする。ケイマフリは海上調査において生息場所を把握するとともに、陸上から繁殖状況等の確認を行う。また繁殖に影響するオジロワシ等の状況も記録する。ウミネコについてはケンボッキ島に上陸及び対岸からの視認で行う。

本年度は 5 月 14 日から霧多布島周辺で視認できる範囲のオオセグロカモメ及びウミウの営巣数の増減を記録した。また雛が生まれてからは巣立ちできる大きさに育つまでのモニタリングも行った。また小型船にて 5 月 30 日に (A) 霧多布から根室市境界まで、5 月 31 日には (B) 霧多布から琵琶瀬高台下まで、6



月 12 日には、(C) 火散布から琵琶瀬高台下及び厚岸町境界まで 3 年間同様の調査を行った。小型船による沿岸調査においてはケイマフリの生息状況も記録し、繁殖記録のある涙岬から鯨浜及びケンボッキ島西側の調査を 7 月 26 日におこなった。また霧多布岬及び小島周辺では継続して行った海鳥調査時に記録した。ウミネコの調査では 4 月から対岸の琵琶瀬高台から視認すると共に、7 月 17 日～18 日にケンボッキ島に上陸し行った。オジロワシについては船舶の他に霧多布島や小島で記録した。

3) 海鳥及びオジロワシ結果及び考察

今回の浜中町調査では、オオセグロカモメ巢 (2014 年 400±・2015 年 389±巢・2016 年 404±巢) ウミウ巢 (2014 年 541±・2015 年 574±巢・528±巢)・ケイマフリ巢 (2014 年 10±・2015 年 13±巢・2016 年 10±巢) を記録した。また地図上の赤字番号の地点では状況調査を継続して行った。ウミネコは本年度は繁殖が確認できなかった。また繁殖に影響があると考えられるオジロワシについても出現地点及び状況を記載した。種別の各地域の営巣場所・繁殖状況及び結果と考察は以下のとおりである。

(地図上の記号番号：0→オオセグロカモメ U→ウミウ K→ケイマフリ W→オジロワシ
赤字番号は継続調査を行った場所)

(1) オオセグロカモメ：営巣場所及び繁殖状況 (沿岸調査及び継続調査か所)

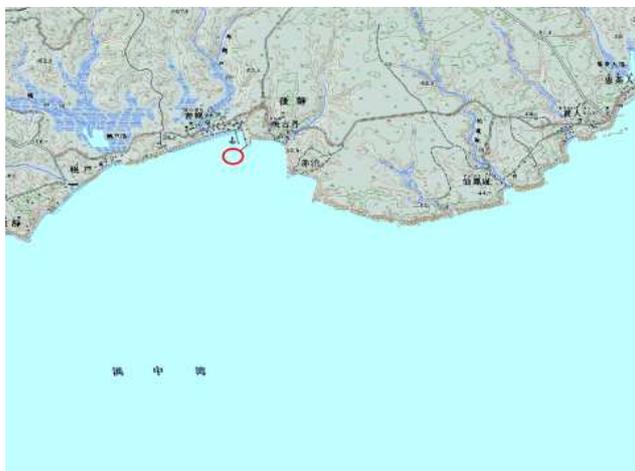
2017 年の営巣か所

地図上の 2017 年の営巣範囲



●浜中町北部：本幌戸港の離れ堤防 1 か所のみで営巣

(2014 年 46 巢・2015 年 42 巢・2016 年 44 巢・2017 年 38 巢)



01 (本幌戸港外堤防)

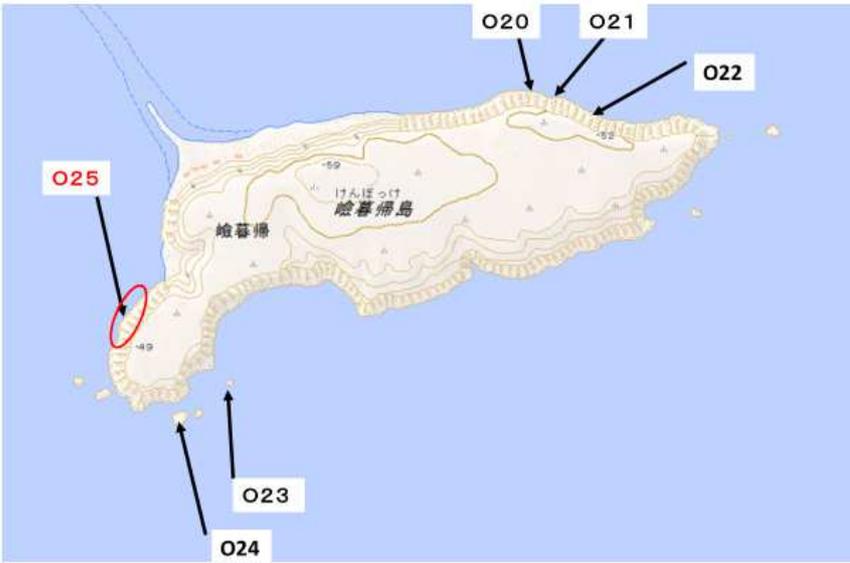
月日	状況
5月30日	38 巢



●浜中町中央部：霧多布港離れ堤防や、霧多布島～ケンボッキ島周辺 20 か所で営巣
 (2014年 352±巣・2015年 335±巣・2016年 335±巣・2017年 313±巣)



番号	営巣数
02	232
03	8
04	14
05	1
06	1
07	1
08	1
09	1
010	2
011	3
012	3
013	1
014	2
015	1
016	11
017	1
018	12
019	5±
020	1
021	1
022	2
023	1
024	1
025	6
026	1
計	313±巣



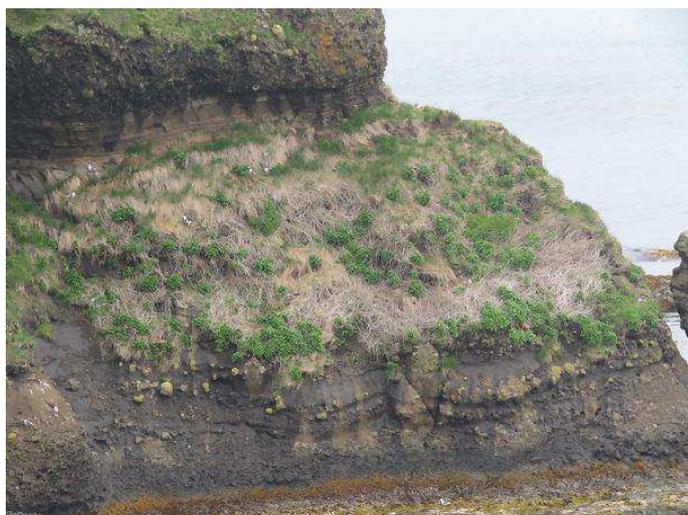
02 (霧多布港離れ堤防) 繁殖状況

月日	上段営巣数	下段営巣数	合計	備考
5月14日	6	53	59 巣	
5月22日	30	138	168 巣	
5月28日	55	177	232 巣	
6月4日	35	142	177 巣	
6月10日	26	134	160 巣	
6月23日	33	158	191 巣	
7月2日	21	85	106 巣	雛の姿が見えてきた
7月10日	1	2	3 巣	巣がなくなり雛の姿もなし
7月17日	0	0	0 巣	雛なし
7月25日	0	0	0 巣	同上



03 繁殖状況

月日	状況
5月31日	0 巢
6月6日	6 巢
6月10日	8 巢
6月16日	6 巢
6月23日	2 巢
7月2日	1 巢



04 (ピリカ岩) 繁殖状況

月日	状況
5月14日	3 巢
5月22日	3 巢
5月28日	3 巢
6月4日	12 巢
6月9日	12 巢
6月13日	13 巢
6月14日	14 巢
6月23日	12 巢
7月2日	9 巢
7月13日	雛 10 羽
7月16日	雛 11 羽
7月27日	雛 13 羽



05 繁殖状況

月日	状況
5月22日	1 巢
6月9日	1 巢
6月14日	1 巢
7月2日	1 巢
7月13日	雛 2羽
7月16日	雛 2羽
7月27日	0羽



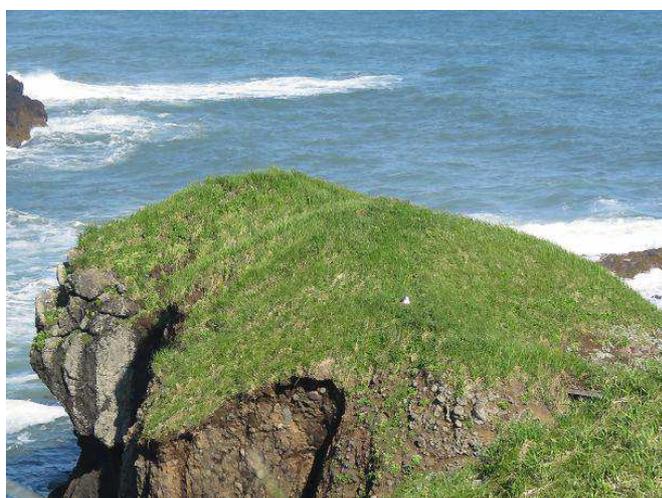
06 繁殖状況

月日	状況
7月8日	雛 2羽
7月13日	雛 2羽
7月16日	雛 2羽
7月27日	雛 2羽



07 繁殖状況

月日	状況
6月9日	1 巢
6月14日	0 巢



08 繁殖状況

月日	状況
5月31日	1 巢
6月16日	1 巢
6月23日	0 巢



09 繁殖状況

月日	状況
5月28日	1 巢
6月10日	1 巢
6月16日	1 巢
6月23日	1 巢
7月2日	0 巢



010 繁殖状況

月日	状況
5月14日	0 巢
5月22日	1 巢
5月28日	2 巢
6月10日	2 巢
6月16日	2 巢
6月23日	2 巢
7月2日	0 巢



011 繁殖状況

月日	状況
5月31日	2 巢
6月10日	2 巢
6月16日	2 巢
6月23日	3 巢
7月2日	3 巢
7月17日	0 巢



012 繁殖状況

月日	状況
6月10日	2 巢
6月16日	3 巢
6月23日	1 巢
7月13日	0 巢



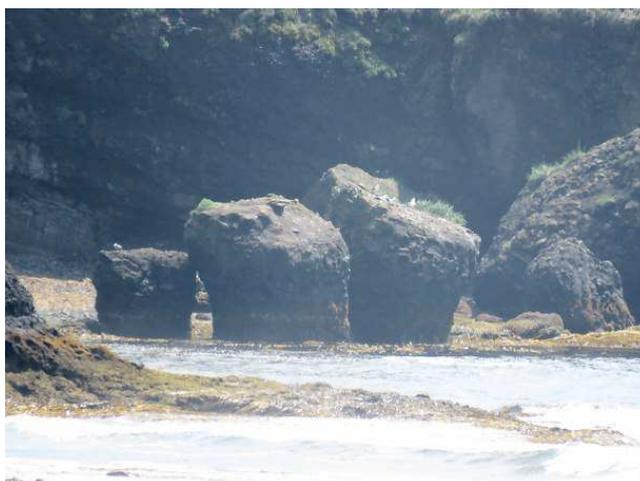
013 繁殖状況

月日	状況
5月31日	1 巢
6月10日	0 巢



014 繁殖状況

月日	状況
5月28日	2 巢
5月31日	2 巢
6月10日	2 巢
6月16日	2 巢
6月23日	2 巢
7月2日	0 巢



015 繁殖状況

月日	状況
5月28日	1 巢
6月30日	0 巢



016 繁殖状況

月日	状況	備考
5月14日	0 巢	陸側
5月22日	0 巢	同上
5月28日	6 巢	同上
5月31日	5 巢	海側、計 11 巢
6月10日	5 巢	表側
6月16日	4 巢	同上
6月23日	3 巢	同上
7月2日	1 巢雛 1 羽	表裏合わせ
7月17日	雛 1 羽	同上



017 繁殖状況

月日	状況
5月14日	1 巢
5月22日	1 巢
5月28日	1 巢
6月10日	1 巢
6月23日	1 巢
7月2日	雛 2 羽
7月17日	0 羽



018 繁殖状況

月日	状況	備考
5月14日	0 巢	陸側
5月22日	0 巢	同上
5月28日	1 巢	同上
5月31日	9 巢	海側、計 10 巢
6月10日	3 巢	
6月23日	2 巢	
7月2日	0 巢	陸海合わせ



019 (小島) 繁殖状況

月日	状況
5月14日	5± 巢
6月10日	0 巢



020 (ケンボッキ島東側) 繁殖状況

月日	状況
5月31日	1 巣



021 (ケンボッキ島東側) 繁殖状況

月日	状況
5月31日	1 巣



022 (ケンボッキ島東側) 繁殖状況

月日	状況
5月31日	2 巣



023 (ケンボッキ島西側) 繁殖状況

月日	状況
5月31日	1 巣



024 (ケンボッキ島西側) 繁殖状況

月日	状況
5月31日	1 巣



025 (ケンボッキ島西側) 繁殖状況

月日	状況
5月31日	2 巣
6月16日	6 巣
6月26日	1 巣



026 繁殖状況

月日	状況
5月31日	1 巢

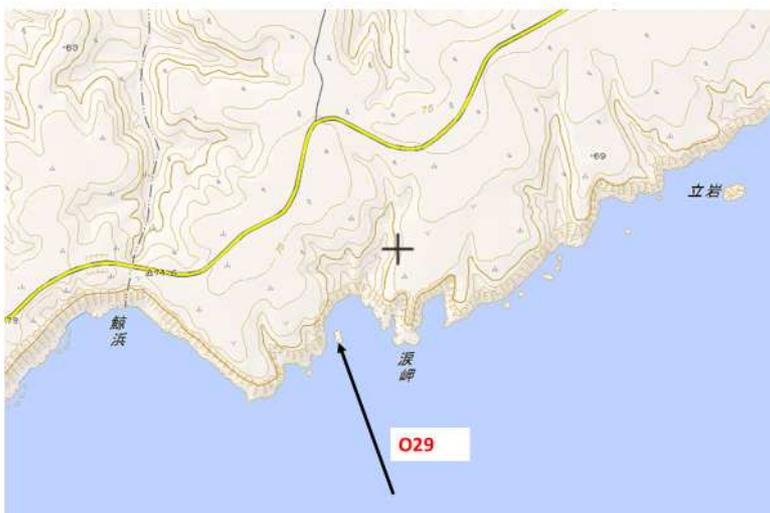


●浜中町南部：岩礁の4か所で営巣

(2014年2 巢・2015年12 巢・2016年25 巢・2017年25+ 巢)



番号	営巣数
027	4
028	1
029	20+
計	25+ 巢



027 (窓岩) 繁殖状況

月日	状況
6月12日	4巢



028 繁殖状況

月日	状況
6月12日	1巢



029 (涙岬付近) 繁殖状況

月日	状況
6月12日	20+巢
7月26日	雛2羽



○オオセグロカモメ結果と考察

浜中町全体のオオセグロカモメ繁殖調査では、2014年 400±巣、2015年 389±巣、2016年 404±巣、本年度2017年は376巣が記録された。4年間の営巣数に大きな変化はないが、本年度はやや減少していた結果となった（表1）。営巣場所及び営巣か所数も4年間で大きな変化はなく、大規模繁殖地もここ4年間変わらず本幌戸港（38巣）と霧多布港（232巣）の外堤防にあり、全体のおよそ72パーセントが集中しており大きな変化はなかった（表2・表3）。ただ中央部では10巣以下の小規模繁殖地がやや増加傾向にあった。

本年度も繁殖状況を調べるため、中央部の霧多布島からケンボッキ島周辺19か所及び南部の涙岬周辺の1か所で継続調査を行った（中央部及び南部の表の赤番号）。小規模繁殖地として15か所（表4）、中規模繁殖地として4か所（表5）、大規模繁殖地として霧多布港1か所（表6）で行い繁殖状況調査を行った。本年度は、当地の最も重要である大規模繁殖地がある霧多布港離れ堤防で雛が全く育たなかったことが判明した。年により変動はあるもののこのようなことは初めてのことである。本年度の継続調査した巣は306巣であったが、育った雛はわずか16羽であった。原因の一つには増加しているオジロワシの捕食や攪乱と考えられ、普通種であったオオセグロカモメの減少に歯止めはかかっていない。2015年に港に近い霧多布島の植林地に出入りしていたオジロワシのペアは2016年に繁殖が確認され、本年度も営巣木は変えたものの同所において繁殖した。本年度も港ではなく小島のウミウを中心に狩りをし、別の個体のオジロワシが港において見られた。2016年は霧多布島で繁殖するペアが狩場を港から小島に変えたことがオオセグロカモメの雛が多く育った理由とも考えられたが、同じような状況で本年度は港において雛が全く育たなかった理由は不明である。

※表1. 営巣数

調査年	北部	中央部	南部	合計巣
2014年	46	352±	2	400±巣
2015年	42	335±	12	389±巣
2016年	44	330±	25	404±巣
2017年	38	313±	25+	376±巣

※表2. 営巣か所

調査年	北部	中央部	南部	合計か所
2014年	1	20	1	22か所
2015年	2	23	4	29か所
2016年	1	20	4	25か所
2017年	1	25	3	29か所

※表 3. 規模別営巣か所（小 10 巣以下・中 10～30 巣・大 30 巣以上）

調査年	北部			中央部			南部		
	小	中	大	小	中	大	小	中	大
2014 年	0	0	1	13	6	1	1	0	0
2015 年	1	0	1	16	6	1	4	0	0
2016 年	0	0	1	15	4	1	3	1	0
2017 年	0	0	1	21	3	1	2	1	0

※表 4. 小規模繁殖地の状況

調査年	調査巣の数	育った雛の数	1 巣から雛が育った割合
2014 年	17 巣	2 羽	0.11 羽
2015 年	27 巣	1 羽	0.04 羽
2016 年	29 巣	4 羽	0.13 羽
2017 年	37 巣	2 羽	0.05 羽

※表 5. 中規模繁殖地の状況

調査年	調査巣の数	育った雛の数	1 巣から雛が育った割合
2014 年	56 巣	3 羽	0.05 羽
2015 年	75 巣	9 羽	0.12 羽
2016 年	61 巣	18 羽	0.29 羽
2017 年	37 巣	14 羽	0.37 羽

※表 6. 大規模繁殖地の状況

調査年	調査巣の数	育った雛の数	1 巣から雛が育った割合
2014 年	234 巣	63 羽	0.27 羽
2015 年	228 巣	11 羽	0.05 羽
2016 年	241 巣	131 羽	0.54 羽
2017 年	232 巣	0 羽	0 羽

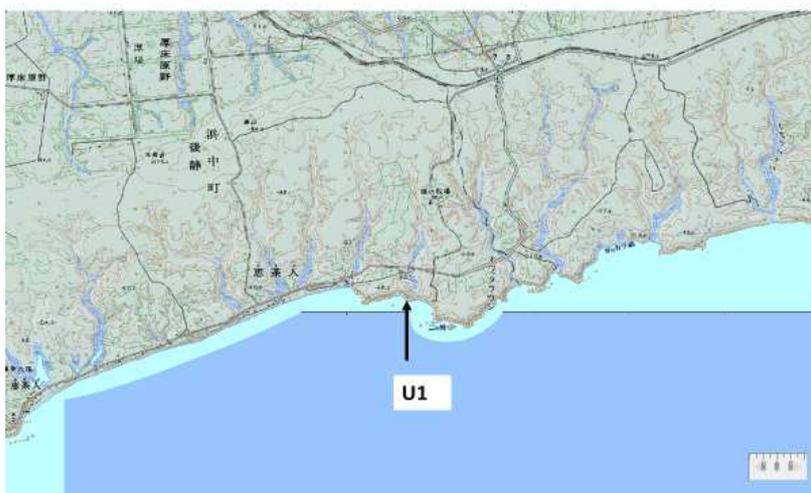
(2) ウミウ：営巣場所及び繁殖状況（沿岸調査及び継続調査）

2017年の営巣場所

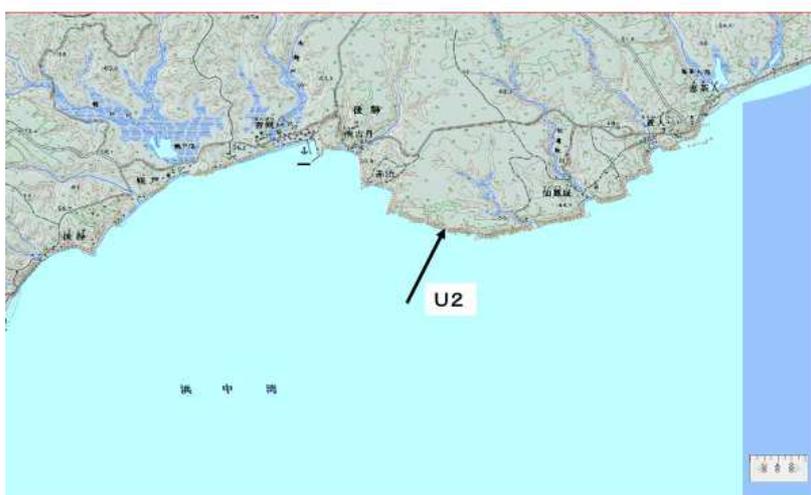


●浜中町北部：ニツ岩～根室市境界の2か所で営巣

(2014年128巣・2015年60巣・2016年17巣・2017年24巣)



番号	営巣数
U1	4
U2	20
計	24 巣



U1 繁殖状況

月日	状況
5月30日	4 巢



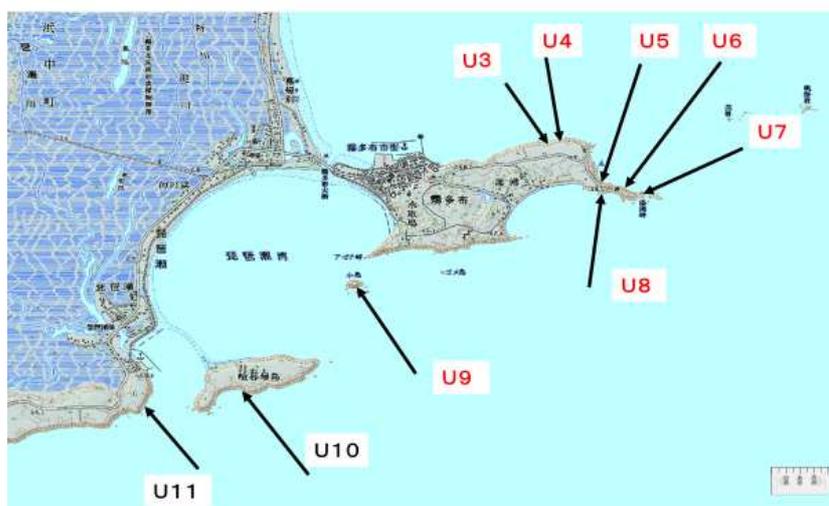
U2 繁殖状況

月日	状況
5月30日	20 巢



●浜中町中央部：霧多布島～琵琶瀬高台下の9か所で営巣

(2014年 349±巢・2015年 428±巢・2016年 434±巢・2017年 376±巢)



番号	営巣数
U3	3
U4	12
U5	2
U6	22
U7	101±
U8	25
U9	179
U10	1
U11	31
計	376±巢

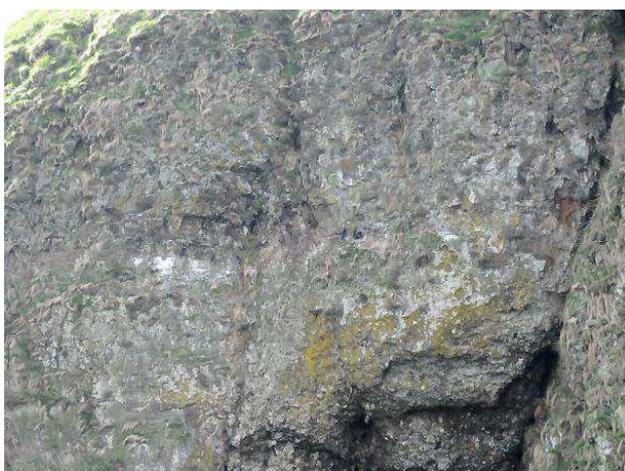
U3 繁殖状況

月日	状況
5月31日	3 巢
7月5日	0 巢



U4 繁殖状況

月日	状況
5月31日	12 巢
7月5日	9 巢



U5 繁殖状況

月日	状況
5月14日	2 巢
5月19日	0 巢



U6 繁殖状況

月日	状況
5月14日	22 巢
5月22日	0 巢



U7 (ピリカ岩) 繁殖状況

月日	状況	備考
5月14日	61 巢	陸側
5月19日	40±巢	海側、計 101±巢
5月22日	52 巢	陸側
5月28日	42 巢	同上
5月31日	40±巢	海側
6月14日	42 巢	以降陸側
6月23日	38 巢	
7月2日	34 巢	
7月13日	成 45 羽+幼 115 羽	
7月16日	成幼合わせ 145±羽	
7月27日	成幼合わせ 150±羽	



陸側



海側

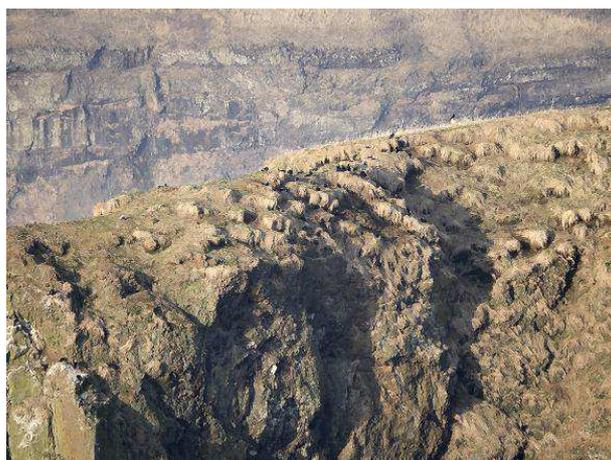
U8 繁殖状況

月日	状況
5月14日	25 巢
5月22日	23 巢
6月16日	22 巢
7月13日	成 21 羽、幼 42 羽
7月27日	成 11 羽、幼 29 羽

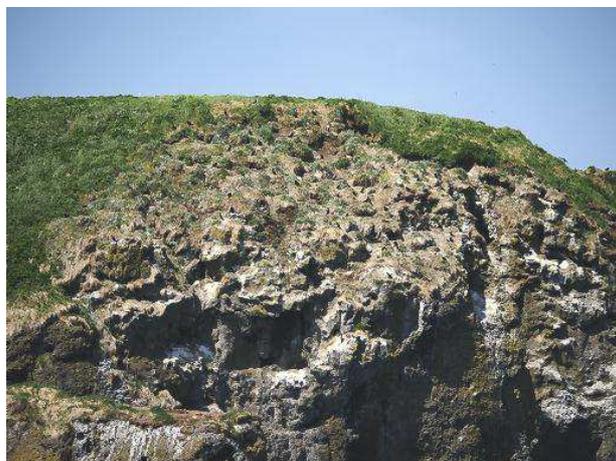


U9 (小島・断りがない限り北側のみ) 繁殖状況

月日	状況	備考
5月14日	44 巢	北側
5月22日	47 巢	
5月28日	44 巢	
5月31日	132 巢 (北側と南側の 総数 Max179 巢)	南側
6月4日	42 巢	北側
6月10日	41 巢	
6月16日	31 巢	
6月23日	24 巢	
7月2日	19 巢	
7月9日	成幼合わせ 63 羽	
7月16日	成幼合わせ 65 羽	



南側繁殖地



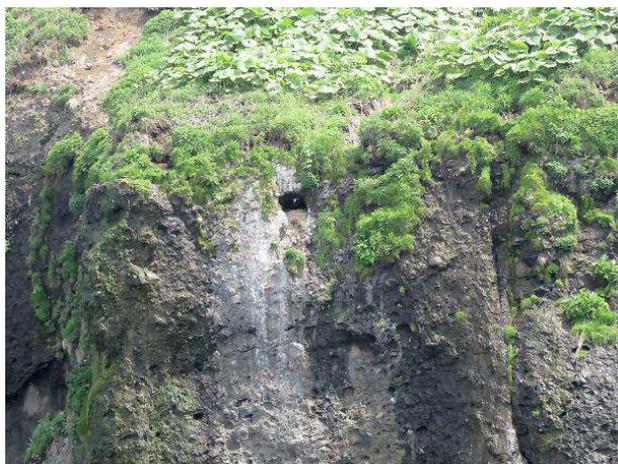
北側繁殖地

○2014年～2017年の小島ウミウの繁殖場所



U10 繁殖状況

月日	状況
5月31日	巢



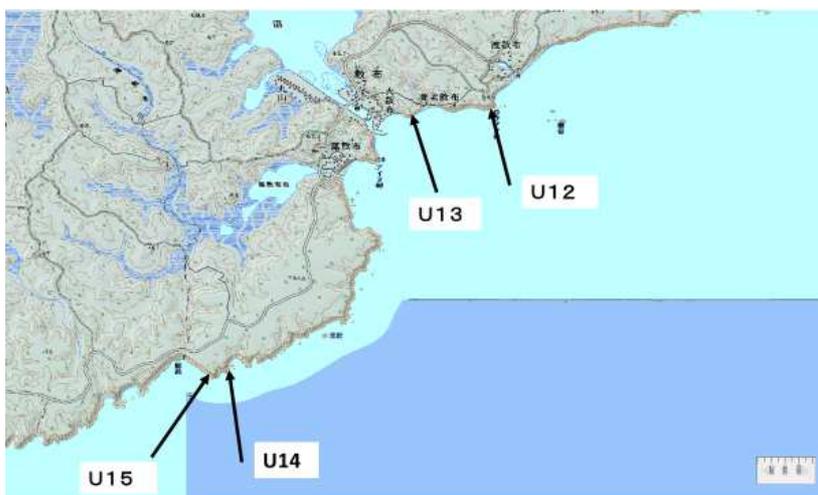
U11 繁殖状況

月日	状況
5月31日	31巢



●浜中町南部：散布～鯨浜の4か所に営巢

(2014年64巢・2015年86巢・2016年77巢・2017年104巢)



番号	営巢数
U12	24
U13	18
U14	5
U15	57
計	104巢

U12 繁殖状況

月日	状況
6月12日	24 巢



U13 繁殖状況

月日	状況
6月12日	18 巢



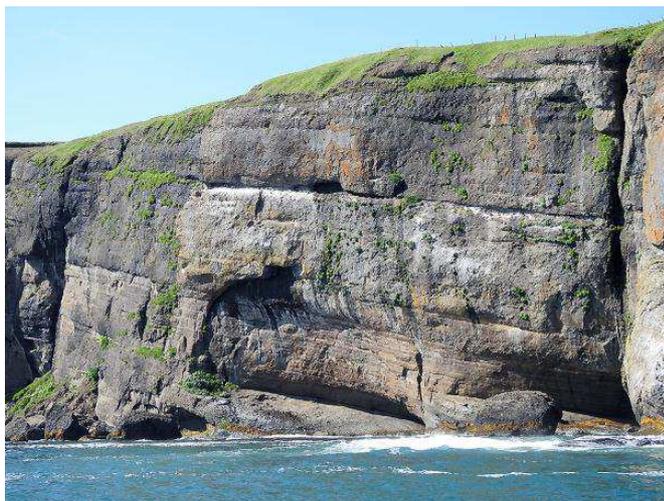
U14 繁殖状況

月日	状況
6月12日	5 巢



U15 繁殖状況

月日	状況
6月12日	57 巣



○ウミウ結果と考察

3か所に分けた浜中町全体のウミウ繁殖調査では、2014年541+巣、2015年574±巣、2016年528±巣、2017年は504巣が記録され（表1）、4年間で最も少ない結果となった。北部では営巣数の少ない状況が続いている。中央部でも営巣数や営巣か所も減少傾向にあり、最も多い小島でも2014年204巣、2015年260巣、2016年296巣であったが、2017年は179巣と少なくなり北側南側とも営巣区域の減少が見られた。2016年に55巣であったピリカ岩であったが、2017年は101巣と倍増した。また2016年まで営巣していなかったU8の岩礁では2017年は25巣が見られ、オジロワシの影響がある小島から一部が営巣場所を変えたと考えられた。4年間の調査により、特に本年は営巣数も営巣か所も減少していることが判明した（表2・表3）。

本年度も繁殖状況を調べるため、霧多布島周辺及び小島の7か所で継続調査を行った（中央部表の赤番号）。本年度は、視認可能な霧多布岬の北部の崖にある小規模1か所（表4）及び中規模1か所（表5）、霧多布岬周辺で小規模1か所、中規模2か所、大規模1か所（表6）、大規模繁殖地の小島のうち北側において随時調査を行った。その結果、霧多布岬北部崖では2か所15巣あったが、1か所は7月5日には0巣となった。もう1か所は9巣が残っていたが、その後の状況は不明である。霧多布岬周辺は4か所に150巣があったが、小規模1か所と中規模の1か所計24巣は0巣となった。大規模のピリカ岩では101巣があったが7月13日には幼鳥115羽が見られた。また中規模の1か所では25巣あったが7月13日に幼鳥42羽が見られ、繁殖は順調であったと考えられた。小島では全体では179巣あり継続調査の北側は47巣であった。7月2日には19巣に減少し、7月16日は成幼合わせ65羽であったことから50±羽の幼鳥は育つたと考えられた。2016年以前には100羽以上の幼鳥が育っていたが半分以下までに減少している。オジロワシの影響により小島での営巣数が減少していることが原因であり、今後の動向を見ていく必要がある。

※表 1. 営巣数

調査年	北部	中央部	南部	合計巣
2014年	128	349+	64	541+巣
2015年	60	428±	86	574±巣
2016年	17	434±	77	528±巣
2017年	24	376±	104	504±巣

※表 2 営巣か所

調査年	北部	中央部	南部	合計か所
2014年	9	15	5	22か所
2015年	3	15	3	21か所
2016年	2	13	4	19か所
2017年	2	9	4	15か所

※表 3. 規模別営巣か所（小 10 巣以下・中 10～60 巣・大 60 巣以上）

調査年	北部			中央部			南部		
	小	中	大	小	中	大	小	中	大
2014年	1	8	0	8	6	1	3	2	0
2015年	0	3	0	9	5	1	0	3	0
2016年	2	0	0	8	4	1	2	2	0
2017年	1	1	0	3	4	2	1	3	0

※表 4. 小規模繁殖地の状況

調査年	調査巣の数	大きな雛が残った巣または幼鳥の数
2014年	16 巣	0 巣
2015年	27 巣	2 巣
2016年	19 巣	2± 巣
2017年	5 巣	0 巣

※表 5. 中規模繁殖地の状況

調査年	調査巣の数	大きな雛が残った巣または幼鳥の数
2014年	60 巣	5 巣
2015年	74 巣	19 巣
2016年	47 巣	20+ 巣
2017年	37 巣	9 巣および幼鳥 42 羽

※表 6. 大規模繁殖地の状況

調査年	調査巣の数	大きな雛が残った巣または幼鳥の数
2014年	小島南北合わせ 204+ 巣	不明だが北側営巣地だけで 120±羽の雛が育った と考えられる
2015年	小島南北合わせ 260± 巣	不明だが北側営巣地だけで最低でも 200 羽以上の 雛が育ったと考えられる
2016年	小島南北合わせ 296± 巣	不明だが北側営巣地だけで 100±羽の雛が育った と考えられる。
2017年	ピリカ岩陸側海側合 わせ 101± 巣	陸側から見られた幼鳥（海側も一部見えている） 115 羽
	小島南北合わせ 179 巣	北側（Max47 巣）で残った巣は 19 巣のみ。北側巣 の幼鳥は 50±羽程度と考えられる

(3) ケイマフリ：営巣場所及び繁殖状況

(2014年 10+巣・2015年 13+巣・2016年 10+巣・2017年 7+巣)

2017年の営巣場所



●浜中町中央部：霧多布島～ケンボッキ島

(2014年 3+巣・2015年 4+巣・2016年 1+巣・2017年 1+巣)



2017年の繁殖

生息地	最大数	営巣地番号	営巣数	備考
A	6		未繁殖	ピリカ岩及び灯台南側出っ張りの亀裂 出入りのみ。両方共最大6羽
B	16	K1	1+	小島南側亀裂に営巣。ケンボッキ島東側 崖亀裂に出入りがみつけたが未繁殖
C	3		0	2014～15年繁殖 16～17年未繁殖

A：霧多布岬海域

過去の繁殖場所であったピリカ岩周辺では2014年最大7羽、2015年最大10羽、2016年8羽、2017年度は6羽のケイマフリが見られた。海上デコイへの接近や、ピリカ岩の亀裂に出入りするのが見られたが本年度も繁殖はなかった。また本年度は灯台南側に最大6羽が見られ、6月17日には出っ張りの亀裂に3羽が出入りするのが観察されたが、こちらでも繁殖までは至らなかった。



ピリカ岩亀裂



灯台南側出っ張り亀裂



B：小島海域

小島では2014年最大13羽、2015年最大22羽、2016年最大17羽、2017年には最大16羽が見られている。巣は例年通り南側亀裂にあると考えられるが、見えない区域であることから繁殖行動は餌運びによる確認しかできない。本年は餌運びが7月14日、7月16日、7月17日、7月26日、7月27日に確認できた。7月27日には2時間の間に4回エサ運びが見られ2ペア程度繁殖した可能性もあったが、ここでは1ペア+が繁殖とした。小島では近年3ペア程度が順調に繁殖が続いていたが、2016年度から繁殖数が減少している結果となっているが原因は不明である。今後の繁殖状況がどうなっていくか注視していく必要がある。



小島繁殖場所

K1があると考えられる小島南側の亀裂がある区域



ケイマフリ 1羽が飛び込んだ
ケンボッキ島東側亀裂



C : ケンボッキ島付属岩

2014年及び2015年は1ペアが繁殖していた。2016年度は7月24日に3羽が500m沖に
いただけで餌運びは確認できなかった。2017年度も7月18日3羽、7月23日1羽が見
られたがエサ運びは確認できなかった。

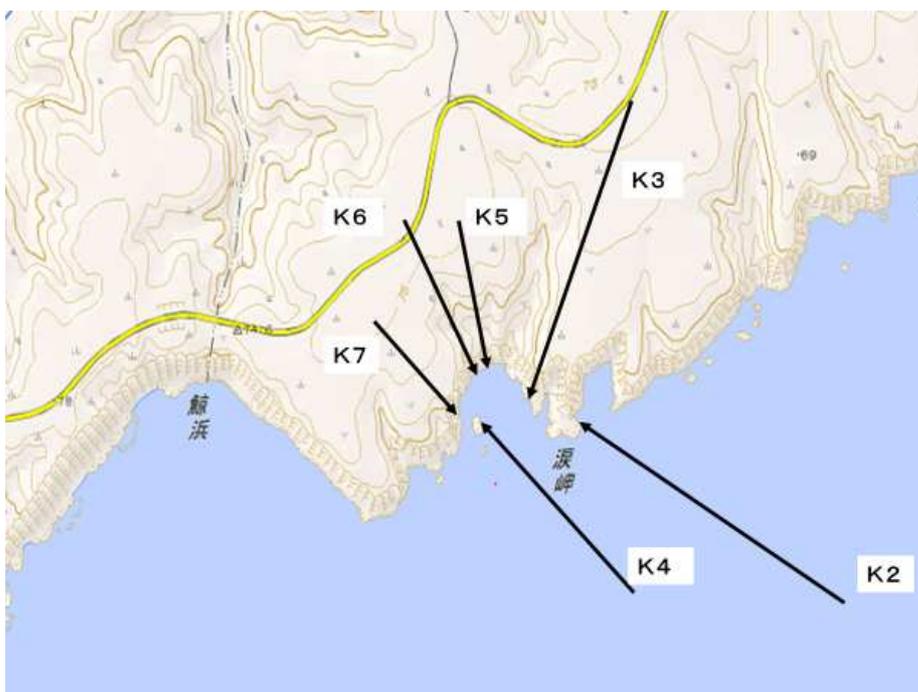


ケンボッキ島西側にある付属岩



●**浜中町南部**：散布～鯨浜 南部Dは6月12日に海上から生息調査を行った。鯨浜及び涙岬付近の繁殖確認は7月26日に行なった。

(2014年7巢・2015年9巢・2016年9巢・2017年6巢)



涙岬周辺
繁殖場所

生息地記号	営巣地番号	備考
D	K2	2014年～2017年の4年連続
	K3	新たな巣
	K4	2015年～2017年の3年連続
	K5	新たな巣
	K6	2014年～2017年の4年連続
	K7	2015年～2017年の3年連続

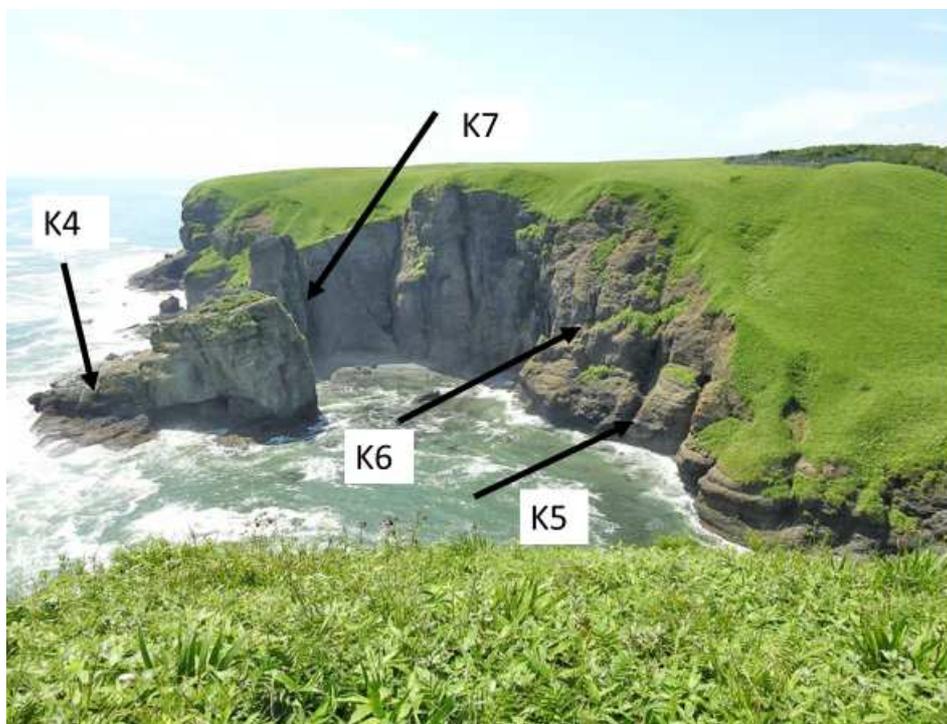
涙岬



涙岬の西側①



涙岬の西側②



○ケイマフリ結果と考察

浜中町全域での繁殖確認は2014年10+、2015年13+、2016年10+であったが、2017年の調査では7+しか確認できなかった。霧多布岬のピリカ岩では本年度も頻繁に鳴きあい上陸や亀裂への出入りがあった。また灯台南側出っ張りの亀裂にも出入りがあったが本年も繁殖まではいかなかった。アゼチの岬より小島海域周辺の調査では、餌運びの回数から1+の繁殖があった。2006年から2015年まで繁殖が確認されており2016年は1つがいが繁殖したが途中で失敗したと考えられていた。2015年は4+が繁殖したと考えられている箇所であり個体数も多いことから今後の復活が期待される。またケンボッキ島東側の崖への出入りも見られたが未繁殖であった。過去にはこの崖でも繁殖が見られたことから今後に再繁殖の可能性はあるだろう。ケンボッキ島西側岩では2014年、15年繁殖が確認されていたが2016年は確認できず、本年度も繁殖はなかったと考えられた。涙岬から鯨浜では2014年7巣で餌運びが確認され、2015年は9巣が確認できた。2016年も9巣で餌運びが確認できたが、2017年は6巣のみであった。特に鯨浜では最大3巣が記録されていたが、本年度は全く確認できなかった。陸上から視認できた数も涙岬及び西側湾では15羽が見られたが、鯨浜では確認できなかった。また6月12日に行った船を利用した沿岸調査では立岩周辺で4羽が見られた。2016年度に行った立岩付近での陸上からの調査では最大12羽であった。涙岬方面から餌を捕りに来ている個体もあったが少数がこの周辺にいることは間違いない

だろう。立岩周辺ではまだ餌運びは確認できていないが、崖から鳴き声をするのが確認できているので繁殖が期待できると考えられた。調査によりケイマフリの繁殖か所は年により確認できない所があった。これは実際に繁殖ペアがいなくなったのか、その年に失敗していただけなのかは不明である。本年度の調査では繁殖数や生息数がやや減少気味であった。根室の島や知床半島では回復傾向にあるところから、太平洋側最西端の繁殖地である当地での今後を注視していく必要がある。



海上での小群



雛に小魚を運ぶ親



●対岸の琵琶瀬高台からの視認状況

月日	羽数	状況
4月10日	ごく少数	ケンボッキ島の上で飛翔
4月14日	200羽+	ケンボッキ島の砂州
4月24日	50羽+	同上
5月21日	100羽±	同上
5月26日	70羽+	同上
6月1日	20羽±	同上
6月16日	100羽+	ケンボッキ島対岸の琵琶瀬港のテトラポット上
6月17日	300羽+	ケンボッキ島の砂州と上部
6月23日	800羽±	ケンボッキ島の砂州
6月26日	200羽±	同上
7月2日	400羽+	ケンボッキ島の砂州と上部
7月14日	500羽±	ケンボッキ島の砂州



砂州のウミネコ（琵琶瀬集落から）
に少数が見られただけ



例年集団で営巣する上部にウミネコの姿がほとんど見えず

●ケンボッキ島上陸調査

7月17日から18日にケンボッキ島に上陸しウミネコ繁殖状況調査をおこなったが、全島で全く繁殖が確認されなかった。ウミネコは数百羽程度生息していると思われるが、群れで降りていたのは島の北西部の浜のみであった。営巣の痕跡は僅かに島の上部で確認されたが、かなり古く営巣初期で放棄されたものと思われる。島ではウミネコの捕食された死体が散見されたが、これはオジロワシによるものと考えられる。7月17日、18日ともに若鳥1羽が確認されたが、全て飛翔中のものであった。カモメ類の雛が全くいないこともありこの時期の島への依存は少ないようであった。



浜に降りている小群



例年集団繁殖する上部の地点



放棄されたらしい古い巣

○ウミネコ結果と考察

ケンボッキ島の海岸部や上部の広い範囲で繁殖するウミネコだが、2014年から2016年の3年間の調査により大幅に営巣地を移動させていることが判明した(図1~図3)。その要因は頻繁に襲撃を繰り返すオジロワシの影響があると分かって来た。2015年には育った幼鳥は確認できず、2016年には7月初旬に確認巣は2巣のみとほぼ壊滅状態となり、ウミネコ自体も早期に減少した。そのため、本年度はどのような状況になるか注目されたが、飛来数も少数になり6月23日の800羽が最大であった。上陸調査でも営巣は確認できず、本年度の繁殖行動はほぼなかったと考えられた。ケンボッキ島で繁殖していた群れがどこに行ったかは不明であるが、100羽単位の飛来があることから再繁殖の可能性もあると考えられ、今後も注視していく必要があるだろう。



図1. 2015年営巣範囲



図2. 2016年営巣範囲



図3. 2017年営巣範囲

(5) 海鳥に影響を与えているオジロワシの生息状況

●船による沿岸調査時の確認場所及び羽数

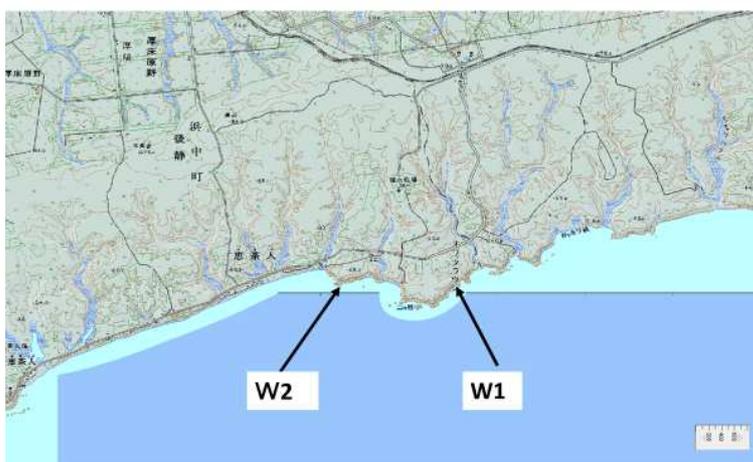
(2014年 14羽・2015年 14羽・2016年 19羽・2017年 34羽)

北部 5月30日、中央部 5月31日、南部 6月12日に調査

2017年の生息場所

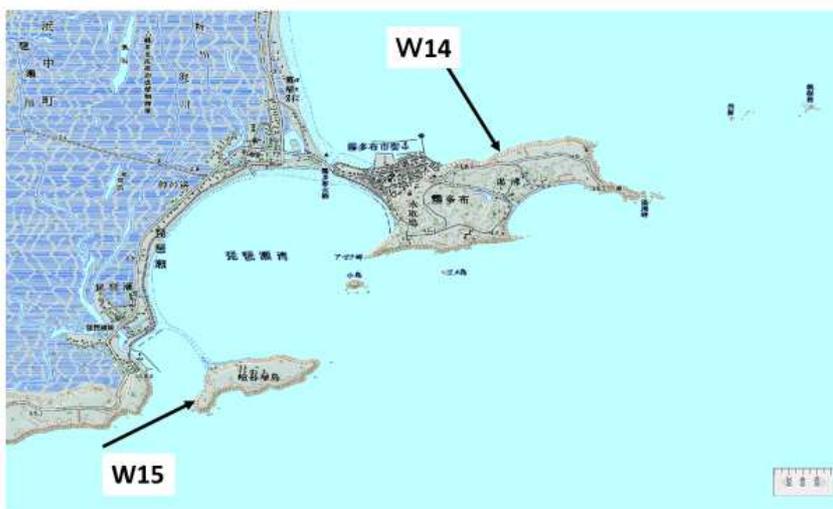


北部 (2014年 8羽・2015年 5羽・2016年 15羽・2017年 30羽)



番号	数
W1	成 1
W2	成 1
W3	成 2
W4	若 1
W5	若 1
W6	若 2
W7	若 1
W8	成 1
W9	成 1
W10	成 2 若 3
W11	成 1 若 4
W12	成 2 若 2
W13	若 1
W14	成 1
W15	成 1
W16	成 1
W17	成 1
計	30羽

中央部 (2014年3羽・2015年2羽・2016年1羽・2017年2羽)



南部 (2014年3羽・2015年7羽・2016年3羽・2017年2羽)



オジロワシ結果と考察

船による海上からの視認では、本年度は30羽のオジロワシが崖上や飛来中で確認された。過去の調査で最も多かった2016年より1.5倍に増加したが、特に北部で成鳥15羽に若鳥15羽の計30羽が観察され2016年より倍増した。北部ではウミウの営巣が減少しているが、オジロワシの増加が理由の可能性はある。オオセグロカモメの最大繁殖地である霧多布港では本年度もオジロワシが見られた。本年度に霧多布港で営巣したオオセグロカモメは232巣であったが、巣立った幼鳥は全くみられなかった。ここで見られたオジロワシは最大2羽であった。オオセグロカモメ繁殖の壊滅的状況がすべてオジロワシのせいかは不明であるが、大きな影響を与えていると考えられた。ケンボッキ島のウミネコはオジロワシの影響が高く、2016年度は繁殖初期からオジロワシが多数集まり、コロニーがごく小さくなり早期に繁殖失敗し数のごく少数となった。本年度は、この影響からケンボッキ島にどの程度のウミネコが集まるか注視していたが、飛来は少数にとどまり繁殖するものがない状況となり影響が大きかったことが判明した。ウミウのいる小島では2015年に比べ2016年は幼鳥の数が半分程度に減少したが、本年度は繁殖数が減少し幼鳥も2016年よりさらに半分に減少した。この原因は、2016年同様に霧多布島で繁殖したオジロワシが親や雛の餌として小島のウミウを多く利用していたことが考えられた。本年度も成鳥1羽～2羽が小島を占領し、飛来してくる若鳥を追い払う行動が見られた。当地のオジロワシはオオセグロカモメ・ウミネコ・ウミウの特に幼鳥を餌とすることが多く、海鳥の繁殖に多大な影響を与えている。今後、オジロワシの影響により海鳥がさらに減少する可能性が高いと考えられる。比較的長寿の海鳥であるが、幼鳥が減少していることから将来急激に親鳥が少なくなり、さらなる繁殖数の減少が考えられるだろう。今後どうなっていくか定期的な調査が必要であろう。



霧多布港でオオセグロカモメを狙う個体



小島付属岩から小島のウミウを狙う、霧多布島繁殖ペアと考えられる2羽